

平成24年3月期決算発表 補足資料

平成24年5月11日
日本ガイシ株式会社

□ はH23/12公表値

	23年3月期		24年3月期		前期比	25年3月期		前期比
	実績	構成比	実績	構成比		見通し	構成比	
売上高合計	2,394	100%	2,478	100%	104%	2,700	100%	109%
<海外売上高合計>	<1,258>		<1,393>			<1,570>		
電力関連事業	539	22%	559	23%	104%	650	24%	116%
営業利益(%)	△81	-	△122	-	-	△40	-	-
セラミックス事業	1,243	52%	1,339	54%	108%	1,450	54%	108%
営業利益(%)	311	(25%)	333	(25%)	107%	270	(19%)	81%
エレクトロニクス事業	617	26%	582	23%	94%	600	22%	103%
営業利益(%)	90	(15%)	49	(8%)	54%	50	(8%)	102%

セグメント間売上消去 △ 5 △ 2 -

		売上高比		売上高比	前期比		売上高比	前期比
営業利益(%)	321	(13%)	261	(11%)	81%	280	(10%)	107%
経常利益(%)	327	(14%)	287	(12%)	88%	300	(11%)	105%
当期純利益(%)	244	(10%)	△356	-	-	240	(9%)	-
ROE	8.0%		△12.7%			9.0%		
1株利益	74.8円		△109.1円			73.5円		
配当金(配当性向)	20円(26.7%)		20円(-)			20円(27.2%)		

設備投資	253	11%	288	12%	114%	450	17%	156%
減価償却費	190	8%	189	8%	99%	220	8%	116%
研究開発費	114	5%	114	5%	100%	120	4%	105%

為替レート(円/\$) 88 80 80
 為替レート(円/ER) 116 111 100

平成24年3月期 連結業績の要点

① 概況 前期比増収減益。当期純利益は創業来初の赤字。

電力関連事業は、がいし・NAS とともに低調なものの、NAS で返品を受けた前期比では増収。セミックス事業は自動車関連製品の需要が堅調で値引きや円高影響を吸収して増収。エレクトロニクス事業は半導体市況の落込みや円高影響に加えて、震災影響による需要の減少もあり減収。営業利益は電力関連事業の赤字やエレクトロニクス事業の落込みにより減益。当期純利益は NAS 電池の火災事故に関連する対応費用を特別損失に計上し大幅な赤字。

② 為替影響 売上△82億円、営業利益△23億円（前期 88円/\$→当期 80円/\$、前期 116円/ER→当期 111円/ER）

③ 事業別業績概況

電力関連：前期比 20億円の増収（為替影響△13億円）。がいしは震災影響による国内需要の減少に加えて、中国での大口案件の遅れや競合激化による影響が継続し減収。NAS は返品を受けた前期比では増収も、火災事故の影響により低調に推移。利益は売上高が増加した一方で、生産性の低下や円高影響等により損失が拡大（為替影響△3億円）。

セミックス：前期比 96億円の増収（為替影響△49億円）。自動車関連製品は震災影響があったものの新興国や米国での乗用車販売が堅調だった他、欧米や新興国でのトラック販売が増加したことによる需要の増加により、為替円高や価格下落等を吸収して増収。産業プロセス関連はリウム電池向け焼成炉等の需要が伸張り増収。利益は自動車関連製品の売上高増加や生産性向上等により円高影響や新拠点立上げ費用等を吸収して 22億円の増益（為替影響△9億円）。

エレクトロニクス：前期比 35億円の減収（為替影響△21億円）。ベリリウム銅展伸材は為替円高や下半期の市況悪化により減収。半導体製造装置用セミックス製品は事業買収による増収がある一方で、半導体製造装置市況の悪化や円高影響等により減収。インクジェットプリンター用機能部品は震災影響により減収。双信電機は情報通信インフラ向けの需要が低調で減収。利益は売上高の減少や円高影響等により 41億円の減益（為替影響△10億円）。

④ 特別損失：NAS 電池の火災事故を受けて安全対策費用、資産評価減等で 611億円を計上したほか、未稼働のがいし設備について稼働開始時期が不透明なことから減損損失 27億円を計上。

⑤ 過年度法人税：移転価格税制の更正処分に基づき 78億円を計上。

⑥ 配当：期末配当金を 10円とし、中間配当金 10円とあわせ年間 20円とする予定。

平成25年3月期 連結業績見通しの要点

① 概況 前期比増収。営業利益、経常利益は増益、当期純利益は黒字化。

電力関連事業は、がいし・NAS とともに低調なものの海外案件を見込んで前期比では増収の見通し。セミックス事業は自動車関連製品の需要が堅調で、為替円高や価格下落を吸収して増収の見通し。エレクトロニクス事業は半導体市況の回復や事業買収による寄与もあり増収。利益はセミックス事業で減益となる一方、電力関連事業の赤字が縮小することから、営業利益・経常利益は増益の見通し。当期純利益も NAS 電池の火災事故対応で特別損失等を計上した前期比では大幅に改善する見通し。

② 事業別業績見通し

電力関連：前期比増収。がいしは国内需要が引き続き低調な一方で、中国・中東向けの案件を見込んで増収。NAS 電池は前期に発生した火災事故の原因究明と安全対策を進めた上で、海外向けの出荷を見込み増収。利益は売上高の増加やコストダウンによりがいしは黒字化、NAS も赤字が縮小するものの、電力関連全体では引き続き営業損失となる見通し。

セミックス：前期比増収。自動車関連製品は乗用車販売が新興国・欧州では減速する一方で米国・日本は引き続き堅調。またトラック販売が増加する見通しに加えて規制強化による建機・農機向け需要も増加する見通しから円高影響や値引きを吸収して増収。産業プロセス関連はエネルギープラント関連や医薬用水向けの需要が堅調で増収。利益は自動車関連製品の売上高が増加するものの、生産能力増強に伴う償却費増加や新拠点立上げ費用、価格の低下、円高影響等もあり前期比で減益の見通し。

エレクトロニクス：前期比増収。ベリリウム銅展伸材は需要が低調で減収。半導体製造装置用セミックス製品は半導体製造装置市況が堅調に推移する見通しのほか、拡販や事業買収の寄与もあり増収。インクジェットプリンター用機能部品は競合品の拡大により減収。双信電機は産業機器、情報通信端末向けの需要増加を見込み増収。利益は売上高が増加する一方で電子部品の採算悪化影響が大きくほぼ前期並みとなる見通し。

③ 為替影響 連結：売上△41億円、営業利益△10億円（前期 80円/\$→当期 80円/\$、前期 111円/ER→当期 100円/ER）

④ 配当見込み：中間配当金 10円、期末配当金 10円の年間 20円の予定。

	23年3月期 第2四半期累計期間		24年3月期 第2四半期累計期間		25年3月期 第2四半期累計期間		前期比
	実績	構成比	実績	構成比	見通し	構成比	
	億円		億円		億円		
売上高合計	1,200	100%	1,223	100%	1,240	100%	101%
<海外売上高合計>	<653>		<698>		<710>		
電力関連事業	296	25%	274	22%	250	20%	91%
営業利益 (%)	△ 43	-	△ 49	-	△ 35	-	-
セラミックス事業	594	50%	634	52%	700	56%	110%
営業利益 (%)	154	(26%)	163	(26%)	125	(18%)	77%
エレクトロニクス事業	312	26%	316	26%	290	23%	92%
営業利益 (%)	53	(17%)	39	(12%)	20	(7%)	51%
セグメント間売上消去	△ 2		△ 1		-		

		売上高比		売上高比		売上高比	前期比
営業利益	165	14%	154	13%	110	9%	71%
経常利益	143	12%	144	12%	100	8%	70%
四半期純利益	109	9%	107	9%	90	7%	84%

設備投資	124	10%	130	11%	210	17%	162%
減価償却費	91	8%	90	7%	100	8%	111%
研究開発費	51	4%	53	4%	60	5%	113%

為替レート(円/\$) 91 82 80
 為替レート(円/ER) 121 115 100

平成25年3月期 第2四半期累計期間 連結業績の要点

電力関連事業は震災以降、国内のがいし需要が低迷しているほか、NAS 電池も事業の本格的な再開は下期のため引続き営業損失となる見通し。セラミックス事業は自動車関連製品で乗用車、トラック、建機向けの需要が堅調に推移し増収の見通しも、生産能力増強に伴う償却費の増加や新拠点立上げ費用に加えて円高影響もあり減益の見通し。エレクトロニクス事業はベリリウム銅展伸材で需要減少や銅価格低下などのマイナス影響があるほか、インクジェットプリンター用機能部品でも競合品の拡大による需要の減少もあり減収減益の見通し。全社合計では増収も減益となる見通し。